

# ササキリギングチ

*Ectemnius furuichii* (Iwata)  
ハチ目・ギングチバチ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

## 選定理由

今回の調査で多くの生息地が新たに確認された。県内では安定して生息しているが、青森県、栃木県、埼玉県、群馬県、愛知県で減少が報告されていることから、本県でも注視が必要。

## 種の特徴

体長 12～14 mm。体色は黒色だが、腹部に黄色の斑紋がある。雌の腹部先端部両側に金色の毛が生えている。朽木に営巣し、ササキリ類を狩る。

## 分布

本州に分布。県内では従来、大野市、若狭町、おおい町で記録がある。今回、大野市中洞、荷暮、永平寺町、福井市、越前町、敦賀市、小浜市、高浜町等で新たに生息が確認された。

## 生息を脅かす要因

営巣に適した立ち枯れ木の減少や、土地開発等による営巣環境変化が脅威となる。

**参考文献** 福井県自然環境保全調査研究会 (1985)、福井県自然環境保全調査研究会 (1998)、羽田 (2002)、羽田・井上 (2003)、羽田ら (2005)、羽田ら (2001a)、環境省 (2015)、黒川 (2002)、室田 (2001a)、室田 (2001b)

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○	○		○	○	○			○						○	○

# ニッポンアワフキバチ

*Argogorytes nipponis* Tsuneki  
ハチ目・ギングチバチ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】情報不足

## 選定理由

確認地点数に大きな変化なし。群馬県、埼玉県、千葉県で減少が報告されていることと、希少性を考慮し、要注目とした。

## 種の特徴

体長はメス 12～13 mm、オス 10～11 mm。体は黒色。腹部第1節の2紋と第2～3節後縁の横線、前胸背板後縁の横線、後胸盾板の小紋は黄色。シイタケの腐朽した椽木等に分岐抗を掘り、木屑で仕切ってアワフキムシの幼虫を狩る。

## 分布

北海道、本州、九州、対馬に分布。県内では大野市小池、若狭町三十三間山、敦賀市色浜で記録があった。今回、大野市平家平、福井市国見岳、敦賀市天筒山でも採集された。

## 生息を脅かす要因

もともと個体数が少なく、良い条件の腐木の減少が本種の生存に影響を与えると考えられる。

**参考文献** 千葉県 (2011)、福井県自然環境保全調査研究会 (1985)、福井県自然環境保全調査研究会 (1998)、羽田ら (2002a)、環境省 (2015)、室田 (1998)、野坂・黒川 (2001)、埼玉県みどり自然課 (2008)

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○					○										○	○

# ヤマトスナハキバチ

*Bembecinus hungaricus japonicus* (Sonan)  
ハチ目・ギングチバチ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】情報不足

## 選定理由

もともと県内に広く記録のある種であったが、今回確認地点数は減少。茨城県、京都府、島根県の各府県をはじめ、全国的に減少しており、県内でも本種の営巣環境は悪化している可能性があることから、注視が必要。

## 種の特徴

体長 8～12 mm。体は黒色で光沢がある。腹部第1、2、4節背板の横帯等は白黄色。主に海岸や河川敷に生息。夏に砂地に営巣し、ヨコバイやキジラミ等を狩る。

## 分布

北海道～沖縄に分布。県内ではもともと嶺北・嶺南に広く記録があった。今回は敦賀市天筒山、大野市小谷堂のほか、福井市内、坂井市丸岡町内でもみつけた。

## 生息を脅かす要因

海岸砂丘や河川の生息環境の消失が減少の要因となる。

**参考文献** 福井県自然環境保全調査研究会 (1985)、福井県自然環境保全調査研究会 (1998)、環境省 (2015)、羽田 (1998)、黒川 (2003)、京都府自然環境保全課 (2015)、室田 (2003)、室田ら (2008b)

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○	○		○	○					○	○	○		○	○	○

昆虫類